

農作業時の放射線被ばく対策

福島県農林水産部

農地の放射性セシウムは、農地除染や自然減衰などにより、震災直後と比べてかなり減少していますが、残存しているものもあります。追加被ばくを少なくし、より安全に農作業を行うことのために、具体的に何にどのように気をつければ良いのかをお知らせします。

1 農作業時の注意点

(1) はじめに

- まずは、農業機械による事故や熱中症に十分注意を払うことが重要です。
- 特別なことではなく、衛生や安全のために「普段から行っていることを、きちんとやる」心がけが大切です。

(2) 農作業時の放射線被ばく対策

- 農作業を行う際は、なるべく長袖、長ズボン、必要に応じてマスクなどを着用しましょう。
虫よけや日焼け防止、農薬散布などで、普段から着用している作業着で十分です。その作業着等は、土とともに放射性セシウムが体の表面についたり、体内に取り込まれるのを防ぐのにも、たいへん役立ちます。耕うん作業等により、土ぼこりが舞い上がるような場合は、マスクを着用しましょう。わずかではありますが土ぼこりに放射性セシウムが含まれている可能性があります。マスクと顔（特に鼻や頬）の間に隙間ができないように装着すると良いでしょう。
- 休憩時や農作業を終えた後は、手や顔を洗い、うがいもしっかり行いましょう。
農作業時に、服や手、顔などに土とともに放射性セシウムが付着する可能性があります。休憩時にうがいや手洗い、洗顔をすると良いでしょう。特に、作業を終えて食事をする前には、うがい、手洗い、洗顔を必ず行うようにしましょう。

○ 農作業を終えた後は、作業時に着ていた服を着替え、洗濯して清潔にしましょう。

1日の作業が終わったら、身につけていた作業着やカッパ、長靴などは、家に入る前に納屋等の屋外で脱ぐようにすると良いでしょう。これにより農作業時に付着したちりやほこりとともに、これらに付着している可能性のある放射性セシウムを家の中に持ち込むことを防ぐことができます。作業着やカッパ、長靴などに土や泥などが付着した場合は、家の外で洗い流すなどしましょう。水洗いすることで放射性セシウムは土とともに簡単に洗い落とせます。作業着等を常に清潔に保っておくことは、衛生面からも重要です。

(3) 農作業（耕うん時）の内部被ばく線量（よ たくじつこうせんりょう 預託実効線量※）の推定

耕うん時の土ぼこりを吸入した場合の土壤に含まれるセシウム-137による内部被ばく線量は、土壤のセシウム-137濃度から推定することができます。

※預託実効線量→放射性物質を摂取した場合に、それ以後の生涯にどれだけの放射線を被ばくすることになるかを推定した被ばく線量

表. 土壤中セシウム-137による1時間当たりの耕うん時におけるセシウム-137の吸入による被ばく線量

土壤中セシウム-137濃度 (Bq/kg)	500	1000	2000	3000	4000	5000
1時間当たりの耕うん時におけるセシウム-137の吸入による被ばく線量 (μ Sv)	0.01	0.02	0.05	0.07	0.10	0.12

- ・ 耕うん時における土壤の舞い上がりから大気中セシウム-137濃度を算出し、1時間あたりの作業中に吸入したセシウム-137による内部被ばく線量を算出。
- ・ 表の値に至る計算式を省略しています。なお、被ばく線量は土壤条件等により多少変動します。

発行：福島県農林水産部農業振興課（電話：024-521-7336）

○ホームページ：農林水産部農業振興課ホームページでは、他の農業技術情報等もご覧いただけます。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>